13. Kr-81m ボーラス法(緩速および急速吸入)による気道狭窄部位の検索

勝山　直文　外間　之雄　大嶺　広海
三浦健太郎　中野　政雄　(琉球大・放)

Kr-81m を 10 m*l* の空気にてボーラス吸入を行った．吸入速度を 0.25 *l*/秒 の緩速吸入とできるだけ速い急速吸入にて行った．肺癌，気管支結核，喘息の中枢気道に狭窄がある症例では急速吸入法で吸入欠損が認められ，緩速吸入法ではその欠損が減少した．このことは吸入速度を速くした場合，狭窄のある気道内における気流が層流から乱流に変化し，その部の抵抗が高くなるためである．末梢気道病変では吸入速度による差は認められなかった．気道抵抗は気道の断面積に影響され，吸入速度による影響を受けるのは5次気管支までといわれている．本法により，気道狭窄の部位とその程度が非侵襲的に知り得ることが可能である．

座長のまとめ(演題 14～17)

森田誠一郎　(久大・放)

演題14: 前立腺癌の骨シンチグラフィの結果，約63%に骨転移を認め，これらのシンチグラム所見，骨シンチグラフィの意義について報告があった．

演題15: 放射線治療によって治癒したと思われるリンパ上皮腫の骨転移巣の4年間の観察例を報告した．

演題16: 進行性化骨性筋炎2例，外傷性化骨筋炎2例の計4例の骨X線所見と骨シンチグラフィ所見と対比し，4例とも match していた．

演題17: ^{67}Ga シンチグラフィの肝所見について，びまん性および限局性の集積の異常例を retrospective に検討して報告した．

14. 前立腺癌の骨シンチグラフィーの検討

村井　伸子　星　博昭　陣之内正史
月野　治明　小野　誠治　木原　康
渡辺　克司　(宮崎医大・放)

前立腺癌49を対象として骨シンチグラフィーを行い，骨転移について retrospective に検討した．対象は全例病理組織学的に確定診断を得ている．骨シンチグラム上，異常集積を認めたのは37例で，このうち骨転移ありと判定されたものは31例 (63%) であり，ほとんどが多発性であった．転移部位は肋骨，胸椎，腰椎，骨盤の順に多かった．このうち，X線写真で転移性所見を認めた21例中 Osteo plastic type は17例と最も多く，一方所見のみとめられなかったものは6例であった．また，血液生化学的には，ALP 値は骨転移の数が増すとともに上昇する傾向にあったが，PAP 値には骨転移数との間に明らかな関係は認められなかった．

15. 骨シンチグラムで長期経過観察したリンパ上皮腫骨転移の一例

吉居　俊朗　佛坂　芳孝　白井　茂夫
横手　敏明　沖永　利親　檀浦龍二郎
鴛渕　雅男　菊池　茂　森田誠一郎
大竹　久　(久大・放)

発病後5年以上を経過し，現在も健在であるリンパ上皮腫の症例で，特に骨転移巣の経過観察に ^{99m}Tc-MDP による骨シンチグラムが有用であった一症例を報告する．症例は17歳，女性．両側頸部腫瘤を主訴として受診し，右頸部腫瘤および上咽頭の生検でリンパ上皮腫と診断され放射線治療および化学療法を行った．治療終了2か月後に右背部痛を訴え骨シンチグラムで右肩甲骨に異常集積を認め，また，骨X線で右肩甲骨外側縁のほぼ中央部に骨融解像を認め骨転移と診断した．このため ^{60}CO による放射線治療を行い，その後骨シンチグラムによる経過観察を4年間行い右肩甲骨部の異常集積は消失した．患者は現在，原発巣は再発の徴候なく，また骨転移巣の疼痛などの臨床所見もなく健在であり，発病後5年以上たっており治癒したと思われる．

16. 化骨性筋炎4例の骨シンチグラフィーの検討

永安　治　白井　茂雄　神田　哲朗
佛坂　芳孝　森田誠一郎　大竹　久
(久大・放)
井上　明生　後藤　武史　相良　正志
(同・整形)

化骨性筋炎は比較的稀な疾患で，骨外集積を示す代表

Presented by Medical*Online